

平成19年度

学力向上拠点形成事業 ～確かな学力育成のための実践研究事業～

実践研究報告 (第2年次)



神奈川県立田奈高等学校

7

これまで本校では、1年次に6学級規模のところを8学級展開にした30人規模の学習、1、2年次の数学と英語を2分割による小集団学習、さらに、情報や家庭科のTTなど、生徒一人ひとりにきめ細かい指導を実践してきた。その結果、生徒の学習への取り組みは一定程度改善され、進級・卒業する生徒の率は大幅に上昇しつつある。しかし、途中で授業についていけないなどの事情から意欲を失いがちな生徒もいる。また、ここ数年の進路状況を見ると、卒業時点で約3割の生徒が進路未定という状況は相変わらず続いている。

そこで、平成18年度から文部科学省の指定を受けて始まった「学力向上拠点形成事業」（確かな学力育成のための実践研究事業）では、『「キャリア教育の推進」を通して、生徒の「学習意欲の高揚」を図り、授業改善によって「確かな基礎学力」の定着に結びつけること』を研究のねらいとした。そのために、まず、「キャリア教育」についての理解を深めるための研修会の実施、第二に、地域の企業と連携した就業体験の実施、第三に、意欲に応える授業改善と教育課程の開発を行っていくことにした。

初年度は、新規事業として「職場見学体験」を1年次の夏休みに実施し、それを通して「職業理解」と「基礎学力の重要性への気づき」をはかり、職業理解や自己有用感の醸成など一定の成果をおさめた。しかし、それらが、学習意欲の向上に結びつくのかという点では課題を残した。そこで、19年度には、「地域連携によるキャリア教育を充実させ、それを学習意欲の向上にいかにつなげるか」「授業改善によりいかに基礎学力の定着を図るか」をテーマとして、研究を深める試みを行った。

19年度の主な成果として、

- 「職場見学体験」においては、事前指導として、生徒を小グループに分けて、地元企業の経営者の方から話しを直接に聞き、質問する「職業インタビュー」を導入するなどした結果、コミュニケーションの中で生徒は多くの収穫を得ることができたこと
- 事後のふりかえりの機会として、「職場見学体験」の協力企業の方から具体的に感じたことを述べていただいた中で、事業所の立場からもよい体験ができたことを挙げていただくことができるなどの収穫を得ることができたこと
- キャリア教育については、中央大学の大学院生を生徒の小グループでの話し合いのファシリテーター役で入ってもらう設定で、「中央大学との連携によるキャリア教育」の実践により生徒のキャリア意識の向上を図ることができたこと
- 総合Bで新規事業「校外体験学習」「地域で福祉を体験する」などキャリア教育の充実を図る講座が実践されたこと
- 「授業改革アンケート」「授業公開週間」「協同的な学びの実践（グループ学習）」「授業研究会参加」、「基礎学力テスト」、「生徒による授業評価」などにより授業改善を進めたことなどが挙げられる。

以上のように、体験学習の事前事後の段取りを丁寧に実施し、生徒の小グループでの学びに社会資源の活用をするなどの工夫を加える一方で、授業改善の試みを豊富に展開することにより、積極的な意識が学習につながる可能性がみえてきた。今年度は、県教育委員会より指定を受けた、「全日制普通科における新たな学校のしくみづくり」の推進と並行して、キャリア教育、授業改善、教育課程の開発に特化し実践的に研究していく。

目 次

I	平成19年度の中間報告について	
1	推進校の概要	3
2	研究のねらい	3
3	研究の概要	4
4	成果と課題	4
II	平成20年度の実施計画について	6
III	実践研究報告Ⅰ ～キャリア教育への取り組み～	
1	体験的キャリア教育の実践について	7
	(1) 総合Aにおける「職場見学体験」の取り組み	7
	(2) 総合Bにおける「校外体験学習」の導入	13
	(3) 総合Bにおける「地域で福祉を体験する」の実践	17
2	中央大学とのキャリア教育連携授業について	19
IV	実践研究報告Ⅱ ～授業改革への取り組み～	
3	授業改革アンケートの実施とその活用	23
4	授業公開週間の実施と総括	27
5	授業研究(協同的な学びを目指して)	31
6	「基礎学力テスト」について	35
7	「生徒による授業評価アンケート」のまとめ	39
	・国語科	40
	・地歴・公民科	41
	・数学科	42
	・理科	43
	・保健体育科	44
	・芸術科	45
	・外国語(英語)科	46
	・家庭科	47
	・情報科	48
	・総合的な学習の時間	49

学力向上拠点形成事業（高等学校）（確かな学力育成のための実践研究事業）
平成19年度中間報告書・平成20年度実施計画書

I. 平成19年度の中間報告について

1 推進校の概要（平成20年3月現在）

①学校名		神奈川県立田奈 ^{たな} 高等学校									
②学級数, 生徒数											
課程	学科	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		計	
		生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
全日制	普通科	226	8(6)	209	6	180	6			615	20(18)
③教員数											
校長	教頭	教諭	養護教諭	非常勤講師	実習助手	ALT (PFT)	事務職員	司書	計		
1	2	47	2	6	1	1 (2)	6	1	67 (69)		
④卒業後の進路											
進学						就職		その他			
四年制大学		短期大学		専門学校							
29		9		35		57		50			
⑤ホームページアドレス				http://www.tana-h.pen-kanagawa.ed.jp/							

2 研究のねらい

本研究は、『キャリア教育の推進』を通して、生徒の『学習意欲を高め』、いかにして『確かな基礎学力』を身につけさせるかを究明することにある。その過程において、「何が生徒の学習意欲、勤労意欲を乏しくさせているか」も解明していく。また、教職員のキャリア教育への共通認識を構築して、生徒のキャリアへの意識変化に的確に対応するシステムづくりも検討する。最終的には、知識や技能ばかりでなくコミュニケーション能力など、社会との係わりの中で逞しく生きる力としての「確かな学力」をいかにして身につけさせるかを解明したい。

3 研究の概要

ここ数年の進路決定状況を見ると、卒業時で約3分の1が未定という状況が続いている。大学への門が広がり、就職状況が好転した今年度も同様であった。これは主に「アルバイトでなんとか・・・」といったキャリアへの認識の甘さやハードルを越えるだけの力の不足が原因である。こうした認識の甘さ、学習意欲の乏しさ、経済的課題など本校の生徒が抱える諸問題を克服するために、「キャリア教育」を核に据えて、「働くこと」への意欲・関心を高めて学習意欲の向上を図り、そこから生きる力としての「確かな学力の育成」に繋げる。そのために、

まず、教職員が「キャリア教育」は勤労観、職業観の育成で、むろん出口指導といった狭い意味ではなく、生き方の指導そのものであるとの認識をもつべく研修を行う。

第二に、地域の企業・経済団体と連携して「職場見学体験」「インターンシップ」を実施し、「働くこと」の意味、意義、企業の持つ社会性などを理解させる。

第三に、生徒の学習意欲を高め、学力をつけることが自己実現につながることを気づかせる。「授業改善」並びに、生徒の将来設計に応える「教育課程の開発」をする。

○研究組織

初年度「キャリア教育推進会議」を立ち上げて事業の推進を図った。19年度からは研究開発グループに位置付けて研究を進めた。

4 成果と課題

《取り組みの目的》

1. 本校生徒に最も不足している「自己肯定力（自尊感情）」を高める。
2. 学習に対する苦手意識を払拭し、意欲的に学習に取り組ませる。
3. 夢をあきらめないために学力の底上げを図る。
4. 社会に出て困らない基本的な知識・常識を身につけさせる。
5. 自ら進んで問題解決にあたる力を身につけさせる。

《今年度の取り組み内容》

1 校外体験学習等

- ・ 1年次総合で「職場見学体験」を実施。228名が参加。
- ・ 2年次総合で「校外体験学習」（事業所インターンシップと専門学校等）に28名が参加、「地域で福祉を体験する」（老人ホーム実習）に10名が参加。
- ・ 1年次総合で、自己理解・他者理解プログラムを実施。
- ・ 1年総合で「マナー講習」「職業インタビュー」「職業ガイダンス」に外部講師を招いて実施し、様々な大人と出会い、交流する機会を作った。
- ・ 2年次に進路適正検査を実施し、自己理解と進路選択を結びつける指導を行った。

2 指導法の工夫

- ・ 1, 2年次の数学・英語を2分割の小集団で実施。きめ細かい指導を行った。
- ・ 1年次数学Iの授業の一部で、グループによる協同的な学習を取り入れた。
- ・ 家庭科と芸術の一部でTTを実施し、生徒にきめ細かく対応した。

3 補習・講習等

- ・ 成績不振者を対象として、単位修得を目指す補習を行った。
- ・ 日常学習を補うべく夏季講習を9講座展開し、延べ44名受講。目標には至らなかったが、学習意欲の向上と講習を実施しやすい環境作りができた。

4 社会人としての基礎的なマナーについて

- ・ 1年生全員及び2年生の校外体験履修者28名にマナー研修を実施。

5 学力向上について

- ・ 授業改革についてのアンケートを行い、現在行っている指導上の工夫や今後の課題を教員が意識すると共に、結果を共有する機会を作った。
- ・ 「生徒による授業評価」結果を各教科会で意識し、分析する機会を作った。
- ・ 研究授業及び授業研究会を行い、希望者が参加する機会を作った。
- ・ 公開授業週間を設定した。見学者には、授業を見学していいと思ったところを報告してもらう形を作り、その結果を全体で共有した。
- ・ 学校外の授業研究会の情報を案内し、希望者が参加できるようにした。

6 今年度の校内の推進体制及びその評価

- ・ 新たな校内組織「研究開発」グループを立ち上げ、その中に本事業を統括する部署を設置したため、キャリア教育の充実という柱に加えて、学力向上のために授業を検討していく新たな動きを作り出すことができた。
- ・ 関係する他のグループとの連携を十分には行うことができなかった。

II. 平成20年度の実施計画について

ア 3年目の課題

1. キャリア教育から学習に対する意識を高める
2. 指導法を工夫する
3. 補習・講習等を行う
4. 授業研究を行う
5. 教育課程を検討する。

イ 取り組みの内容

1. キャリア教育から学習に対する意識を高める
 - ・1年次総合で「職場見学体験」を実施する。
 - ・2年次総合でインターンシップを行う。
2. 指導法を工夫する
 - ・1, 2年次の数学・英語を2分割の小集団で実施する。
 - ・小集団ならではの指導法を検討する。
3. 補習・講習等を行う
 - ・普段の授業の中では理解が難しい生徒などを対象として、補習を行う。
 - ・普段の授業の中では、物足りない生徒及び、進学や就職を希望する生徒を対象に講習を行う。
4. 授業研究を行う
 - ・生徒による授業評価の結果を分析し、授業の取り組みに活かしていく。
 - ・公開授業週間を設定し、互いに授業を見合い、学ぶ機会を作る。
 - ・研究授業及び授業研究会を行う。
5. 教育課程を検討する。
 - ・学習意欲を高める教育課程について検討する。

ウ その他

- ・「研究開発G」が引き続き当指定事業を統括するが、総合Aの「職場見学体験」の取りまとめは進路支援Gに移管し、「生活編」は生徒支援Gと連携して、行うこととする。
- ・これまで本校で実践してきたものを最大限有効利用し、かつ研究を深められるよう、各教科に協力を依頼する。
- ・央大学古賀教授の「キャリア教育の効果測定」に関する研究に協力する中で、本校生のキャリアに関する意識を把握し、効果的な指導法を研究する。
- ・研究の取り組みと成果を「新しいしくみづくり」と有機的に連動させる。

Ⅲ 実践研究報告Ⅰ ～キャリア教育への取り組み～

1 体験的キャリア教育の実践について

(1) 総合Aにおける「職場見学体験」の取り組み

1年の総合的な学習の時間（総合A）は2単位の必修科目で、「進路研究編」と「生活研究編」の2講座から構成されている。この「進路研究編」の中で昨年度から「職場見学体験」をメインの行事として導入した。今年度は事前指導、事後指導を含め、系統立てた「職場見学体験」となるよう発展拡充した。

1 趣旨

総合Aの「進路研究編」の一環として、さまざまな職業の現場や仕事の実際について学び、自らの適性や進路について真剣に考える契機とする。また、責任ある社会人としての最低限のマナーを身につける機会としても活用する。

2 対象生徒

1学年全員236名

3 実施時期

7月20日～31日 8月21日～25日

4 見学体験先

緑法人会、横浜田園ロータリークラブを中心に募集した全53事業所（表参照）

5 事前指導

1. テキスト「進路研究編」を用いた「自己分析」・「進路を考える」のためのグループ学習
2. 生徒の希望調査
3. マナー講習
（株）プラン・ドゥ・シー派遣の講師4名によって、1クラス（30名）単位で50分のマナー講習を実施（緑法人会協力）
4. 職業インタビュー
職場見学体験協力事業所派遣の17人によって、1クラス（30名）を6～8名のグループに分け、各グループに講師が1名入り、職業や社会人の実際についてインタビュー形式で行った。
5. 職場見学体験の概要説明と確認
ワークシートを準備し、実施日時、留意点、場所、交通手段などを確認した。

6 事後指導

1. 記録と感想
ワークシートに見学体験の記録と感想を記入させ、事業所担当者からコメントをもらう。
2. お礼状作成
お礼状を書き、事業所に送付
3. 振り返りシート
楽しかったこと、役にたったことなど振り返りシートに記入し、各クラス廊下掲示して情報共有した。

7 地域との連携

1. 職場見学体験事業所対象説明会
職場見学体験実施前に趣旨、内容、生徒像の説明をし、共通認識を深めた。
2. 職場見学体験意見交換会
職場見学体験実施後、事業所内での生徒の様子と学校側から見た生徒の変化を情報交換し、生徒にとってよりよい職場見学体験の在り方を検討した。

8 協力事業所

1. 職業インタビュー講師一覧

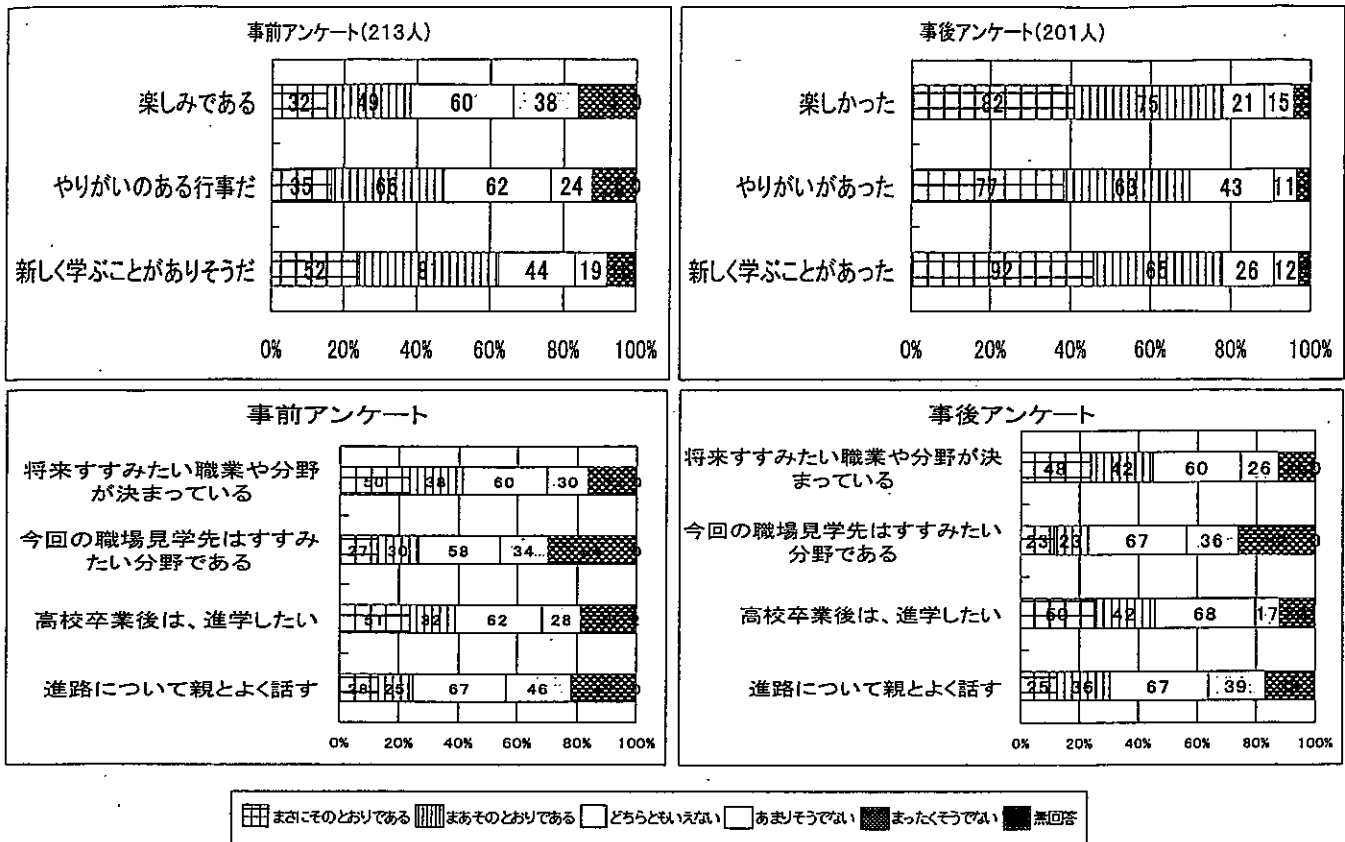
No.	業種	事業所名	役職
1	自動車整備	神奈川県自動車販売店協会	部長
2	製造・機械	金子工業(株)	営業
3	製造・機械	プラムファイブ半導体技術センター	総務部課長
4	製造・機械	エクस्पレッソ	代表取締役
5	製造・機械	株式会社 ミカワ精機	取締役
6	消防	青葉消防署 鴨志田消防出張所	消防出張所長
7	消防	青葉消防署 鴨志田消防出張所	救助係長
8	福祉・介護	フローレンスケア	事務長
9	幼児教育・保育	みほ幼稚園	園長
10	証券業	日興コーディアル証券青葉台支店	総務課長
11	調理・飲食店	ケイゾーインターナショナル	代表取締役
12	調理・飲食店	米宗	代表取締役
13	販売	こくぼ	代表取締役
14	動物・畜産	青葉台犬猫病院	院長
15	郵便局	青葉台駅前郵便局	局長
16	理容美容	パウサ	店長
17	理容美容	カットバーバーゴン	店長

2. 職場見学体験協力事業所一覧

No.	業種	事業所名	No.	業種	事業所名
1	コンピュータ・情報	(株) エクस्पレッソ	28	動物・畜産	社会福祉法人こどもの国協会
2	区役所・郵便局	青葉区役所総合庁舎	29	販売	若松屋商事株式会社
3	区役所・郵便局	青葉台駅前郵便局	30	販売	(有)ナイトウ
4	事務等	(株) こくぼ	31	福祉・介護	介護付有料老人ホーム
5	事務等	(株) タウンニュース社	32	福祉・介護	介護付有料老人ホーム
6	事務等	(有) ジャパンファイナンシャルエージェント	33	幼児教育・保育	東幼稚園
7	自動車整備	(株) ブラザーモーターズ	34	幼児教育・保育	小桜愛児園
8	自動車整備	神奈川県自動車販売店協会	35	幼児教育・保育	学校法人岩澤学園みほ幼稚園
9	自動車整備	(有) 車屋よこみぞ	36	幼児教育・保育	私立奈良幼稚園
10	消防	横浜市安全管理局 青葉消防署	37	幼児教育・保育	黒滝幼稚園
11	証券業	日興コーディアル証券株式会社 青葉台支店	38	理容美容	カーム
12	製造・機械	(株) 計測技術研究所	39	理容美容	美容室パウサ
13	製造・機械	日本化工機材(株) 相模原工場	40	理容美容	ミラートーク
14	製造・機械	(株) 北芝建設	41	理容美容	ヘアメイク カットインポブ
15	製造・機械	協和石油ルブリカンツ株式会社	42	理容美容	(株) トーコーライフ フォー・ラム
16	製造・機械	株式会社エイチエヌエス	43	理容美容	カットバーバーゴン
17	製造・機械	株式会社プラムファイブ 半導体技術センター	44	理容美容	メンツクラブ
18	製造・機械	メガボックス	45	理容美容	ヒギンズハウス
19	製造・機械	一幸電子工業	46	理容美容	サム&ディブ
20	製造・機械	金子工業(株)	47	理容美容	バックスター
21	製造・機械	(株) ミカワ精機	48	理容美容	カームセラ
22	製造・機械(事務等)	オリエンタル産業 株式会社	49	理容美容	イメージア青葉台店
23	製造・食品	ダイニングキッチン喜心	50	理容美容	イメージア藤が丘店
24	調理・飲食関係	ケイゾーインターナショナル有限公司	51	理容美容	イメージアあざみ野店
25	調理・飲食関係	有限会社 米宗	52	理容美容	イメージア鷺沼店
26	動物・畜産	青葉台犬猫病院	53	理容美容	イメージアたまプラーザ店
27	動物・畜産	ペットショップレインボー横浜青葉店			

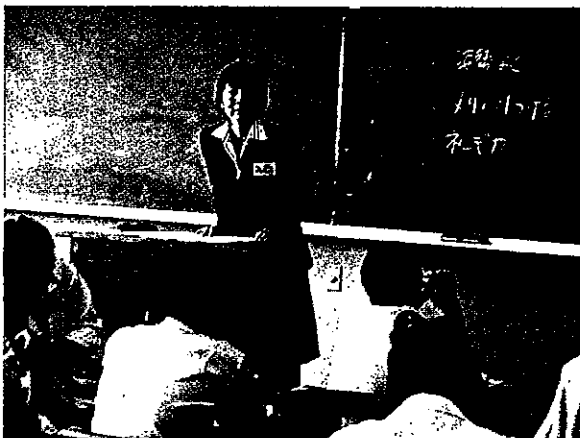
9 生徒の反応

1. 職場見学体験の前後の意識変化



職場見学体験に参加する直前（7月）と直後（9月）の2度、同様の質問項目であるアンケートを実施した。その結果、職場見学体験に対する意識に大きな変化が見られた。職場見学体験に対する肯定的な反応が7月アンケートでは少なかったのに対して9月アンケートでは多くなっている（楽しみである；29.5%→78.1%、やりがいのある行事だ；36.1%→69.6%、新しく学ぶことがありそう；48.3%→78.1%）。生徒にとって初めて職場に入り、仕事の実際に触れるのが職場見学体験である。職場、仕事に対して肯定的な感想をもつ生徒が増加したことは今後のキャリア形成のきっかけ作りとして機能したのではないかと考える。

一方、「将来すすみたい職業や分野が決まっている」や「進路について親とよく話す」など具体的な進路に関する意識変化は事前事後指導を含め、系統的な教育を展開したが、高校一年生という時期もあり、職場見学体験の前後で大きな変化が見られない。しかし、三者面談や地域事業所との生徒個々の交流など「職場見学体験」を出発点とした進路支援の可能性が広がったと考えている。



<マナー講習の様子>



<職業インタビューの様子>

2. 生徒アンケート・ワークシートから

業種名	生徒感想
コンピュータ 情報関係	最初は職場に行くということだけでけっこう緊張したけど、担当の人が思っていたより優しいし、職場はピリピリした雰囲気という印象しかなかったけど、途中で雑談したりして、今までの職場に対する印象が変わった。それに社員も5人くらいしかいなかったし、会社といっても、ごく普通のアパートの家だったので、こういった形でも会社として成り立って、成功することができるんだなってまた印象が変わった。しかし、担当者の人に聞くと仕事内容はやはりきつらしく徹夜する日があるらしいので会社はどんな形でも簡単じゃないし、苦労はあるのだと改めて感じた。今回、今まで持っていたイメージとは違う部分も知ったし、改めて働くことの大変さも知れた。また、仕事によって、色々内容は違うだろうけど仕事を体験することによって、何となく仕事に対するイメージをつかめたので、今後の進路に今回の体験を役立てたいと思った。
区役所	一日あざみ野フォーラムで体験して、改めて人と人とのコミュニケーションの大切さを学びました。難しかったり、失敗したりしたらどうしようを不安だっだけれど、職員の方々がとても親切に教えてくださって、安心して体験に臨むことができたと思います。また、将来、仕事を選ぶうえで参考になる貴重な体験をすることができ、大変充実した一日を過ごすことができたと思えました。任された仕事の責任の重さや仕事をやり遂げた時の達成感など、日常生活の中で味わうことがないような気分をたくさん感じることができました。行く前までは面倒くさいと思っていたけど、またこんな体験ができたらしめてみたいと思うような一日でした。
郵便局	まずネクタイやボタンの位置を一番上まで上げるように言われたので服装ひとつで相手の印象が変わることを学んだ。「いらっしやいませ」、「ありがとうございます」はコンビニのバイトをしていたので難なくこなせたが、コンビニとは違い、ほとんどの人がおじぎや挨拶を返していたのには感動した。また、郵便局の人たちも一緒に声を出してくれるので楽しんで声を出せたのでよかった。体験内容はロビーに立って積極的な挨拶、時間があろうな方に声をかけ「いただいたスイカ等のサービスういしてありがとうございますか？」等、人とのコミュニケーションを主とする内容だった。快く返事をしてスイカを食べ、「おいしかった、ありがとう」と言い残してくれる人や話しかけてくれる人もいた。なかにはスイカの味に文句をつけてくる人もいたりしたが、これも仕事をやるうえで仕方のない道なのだと思えた。最後に郵便局の人たちにはとても親切にしていたので、とてもやりやすかったので感謝します。
事務等	僕は今日「こくぼ」の職場見学体験をして、最初に自己紹介やあいさつの基本の「ハイ・オアシスモ」をやりました。一人一人やったのでとても緊張しました。その次に日常の言葉と丁寧な言葉の違いをよく学びました。それが終わったら自分の同行者が発表されて、僕と一緒に行く人が決まり、城所さんと一緒に行くことになったのでとても楽しみでした。まず、一緒に倉庫に行き、いろいろな雑誌や紙を運ぶことになり大変でした。僕はいろいろな会社に行き、色んな人に挨拶したり、アドバイスをもらったりしてとても嬉しかったです。城所さんと車内でいろんな話ができてよかったと思えました。めったに話すことができていないのでとてもいい体験になったと思えました。「こくぼ」の人はみんな優しく接してくれたのでとても嬉しかったです。10社ぐらい車で移動したので途中で疲れました。車で移動した後、いろんな話をしたのでよかったと思えました。最後に「こくぼ」はいろいろな商品売っていることを初めて知りました。
自動車整備	ブラザーモーターズでは自動車について様々な仕事をしている。特に車検の作業は様々な会社の自動車の車検をいっぺんに扱っていてほとんどのものを一日で終わらせていた。みんなとても暑い中、車の点検を念入りにしていた。その中で僕たちは様々な物を見学させてもらったり、タイヤの脱着や空気の調節までさせていただきとても貴重な体験学習になったと思う。ブラザーモーターズの人たちの話もどれも将来に役立つことばかりだったので今後はこの体験を将来に役立てていきたい。
消防署	初めて青葉消防署を訪ねた時は不安でいっぱい、正直どうなることかと思いましたが、職員のみなさんがとてもやさしく、親切に防火着の装着方法、消防という組織の作り、消化ホースの使い方など色々なことを教えてくださって、僕の不安も少しずつ薄らいでいき、楽しく見学や体験を行うことができました。一番心に残った体験は応急処置、AEDによる救助処置の訓練です。連絡を受けてから救急車がくるまで約6分…その間にオロオロしているのではなく、自分にできることを見つけることが、その人の命を救うことだと知りました。今回の体験で僕は紙や字からは学べない物を学びました。そして、学んだことをこれからの日常生活はもちろん、将来に活かしていけたらいいと思えました。
製造・機械	金属を加工するのが難しいものは機械で、他は人の手によって行われている。金属を加工するのは難しそうなので、慣れなければ上手に加工するのは難しいと思ったが、楽しいと思わなければ慣れるのは難しいと近藤さんが言うてくれて、その通りだと思えました。それに、実際にやってみて結構難しかったです。ミカワ精機で作られた物は人の目に見えない所につく部品で、その部品はとても大切なもので、その部品が少しでも悪い所があると動作不良を起こしてしまう。そして、その部品に仕上げるためにミカワ精機で働く人と同じように人の目に映らない部品を作っている人たちがいるからこそ機械は働き、人のためになるのだと学びました。そして、土台がしっかりしないと、いい物を作ることができないのだらうと思えました。今日半日お世話になりました。
製造・機械 (事務等)	朝礼から始まった職場見学体験は中学の時と同じ緊張感がとても感じられた。時間にルーズにならず、決まり事をしっかり守る、当然のことだと思うけど日常では絶対ないことなので良い経験でした。特に私はアルバイトもしていない人だし、将来的にも事務的な仕事には就かないと思うので、こんな機会がなくて経験できなかったのも夏休み1日を使ってでも来られてよかったと思えます。将来を見つめ直すにはとても良い機会になりました。事務の仕事はささいな間違いで信頼を失ってしまう、1つ1つのことを大切に取扱わなければならない、大きな会社でも小さな会社でも1つ1つの大切さは変わらない、そんな風に思えた一日でした。